

# 岩日タイムズ

発行者  
岩瀬 日本大学  
高等学校  
新聞部顧問  
時杉 博人

# 自分自身に打ち勝つ

## 「精神一到何事か成らざらん」 センター試験激励会へ

12月13日、6限目に4階多目的ホールにおいて、来月にセンター試験を控えた3年6組への激励会が行われた。齊藤校長をはじめ、諸先生方からの激励に受験生は真剣な表情で熱心に耳を傾けていた。齊藤校長は「精神一到何事か成らざらん」という言葉がある。受験には知識や学力に加えて強い精神力も必要になるが、



### 代表の増田祥太さんによる決意表明

また、今回の激励会のために、本場高崎で合格祈願の「白いダルマ」を準備してくれた小泉孝雄主事は、受験生への御利益にと、3年生の前で受験の成功を祈願した。また先輩の姿を目に焼き付けてほしいと1、2年生にもお守りを贈ってくれた。

諦めなければ必ず光が見えてくる。君たちの未来は本校の未来だ」と激励した。小泉英喜教頭は、「君たちが遅くまで頑張っている姿を見ている。『本当の敵は自分自身』であり、常に冷静な心で臨んでほしい」として、改めて努力の大切さと呼びかけた。英語科の吉田智治先生は、当日の状況をかつての卒業生の様子や踏まえて助言した。極度の緊張状態で予想してないことが起こるかもしれないが、最後に「愛（I）は勝つ」と締めくくった。



“正真正銘の合格だるま”の目入れ

進路指導主任の高村先生からは「センター試験は今の実力の点数が出るので、自信を持って取り組むことが大切だ」とあり、2学年担任の長田先生は「60万人の受験生は皆、不安を抱えている。今日は決意を新たにする場。これからがスタート、最後まで頑張ろう」と生物担当で1学年担任の菊池先生は「本番を想像して、最高のパフォーマンスを発揮する場にしてほしい」と多くの先生方が激励の言葉を贈った。



先生方が激励の言葉を贈った。続いて在校生を代表して2年の野村翼さん（写真右）が、受験生にエールを送ってくれた。受験生代表の増田祥太さんは「部活を

## 編集後記

現在、新聞部には国立クラス1、2年の部員がいないため、顧問自ら岩日タイムズ「号外」を作成してみました。かつては「センター試験出陣式」という名称で行われました。その名の通り大学受験という「戦い」に勝ち抜いてほしい、という願いを込めて命名されました。一方で大学受験は自分自身との「闘い」でもあります。本校教員、後輩含め学校全体で受験生を応援しています。（時杉）

引退してから今までの人生の中で一番勉強してきた。これから始まる大学受験に向けて、最後まで頑張りたい」と決意を表明した。その後、恒例となった合格だるまの目入れを、和栗雅也さんが担当した。慎重に筆を執る和栗さんの一挙手一投足に、クラスメイトからも笑みがこぼれた。